

●CPD記録簿 作成の注意事項

- ・各シートにある表は、上限の30項目に満たない場合でも、空欄部分を削除しないでください。
- ・※印のついている項目は、入力が必須です。
- ・【登録番号・氏名】【登録部門数】【CPD記録簿に整理したCPD単位の総数】【対象となる部門】
上記の3項目については、第1年度のみ入力してください。第2年度以降は自動で入力されます。

各項目において、日本技術士会が取り決めているCPD年間上限と地質調査技士登録更新におけるCPD年間申請上限の2つがあります。より低い上限が適用されるため、下表の申請可能上限欄を必ずご確認ください

下表は 2025/4 更新の最新版です。

地質調査技士 で用いる区分	形態区分	形態項目	番号	内 容 *		区分 番号	CPD 重み係数	CPD 計 算	CPD 上 限	申請可能上限に ついて	
①講習会の受講や講師、 論文の発表・査読、発注 者等外部組織からの表彰 等	Ⅰ 参加型	1. 講演・研修	I 1	GEO-Netの加盟団体、日本技術士会、大学、関係学協会（学術団体、公益法人を含む）、民間団体、企業が公式に開催するもの		I 1	1	1×H H:受講時間	-	上限なし	
		2. 組織内研修	Ⅲ 1	研修プログラムが明示されており、それに基づいて実施され成果が明確なもの		I 2	1	1×H H:受講時間	30 /年間	日本技術士会：30/年間 地質調査技士：30/年間	
		3. 学協会活動	Ⅵ 2	(1)国・地方公共団体、GEO-Netの加盟団体、日本技術士会、学協会等の審議会・委員会・専門部会の委員として参加（年間を通した活動であるもの）		I 3	1	1×H H:会議時間/年度	30 /年間	日本技術士会：30/年間 地質調査技士：20/年間（こちらの上限が適用）	
			(2)学協会の会誌購読		I 4	1	1×H H:購読時間/年度	10 /年間	日本技術士会：10/年間（こちらの上限が適用） 地質調査技士：上限なし		
	Ⅱ 発信型	4. 論文・報告文	Ⅱ 1	(1)GEO-Netの加盟団体、学協会、民間団体等が開催する技術発表会・講習会等での講演	学協会等の公的機関主催	Ⅱ 1	5	5×H H:発表時間	-	日本技術士会：上限なし 地質調査技士：上限なし	
					企業等主催	Ⅱ 2	2	2×H H:発表時間	-		
				(2)講演会・技術発表会での研究発表（学協会主催）		Ⅱ 3	5	5×件	-		
			Ⅱ 2	(3)GEO-Netの加盟団体、日本技術士会、学協会、民間団体等が発行する学術誌、技術誌等への論文、報告文の掲載	学術雑誌への査読付技術論文	Ⅱ 4	40	40×件	-		
			査読の無い論文及び企業内論文等		Ⅱ 5	10	10×件	-			
			Ⅱ 4	(4)GEO-Netの加盟団体、日本技術士会、学協会、民間団体等が発行する学術誌、技術誌等の論文、報告文の査読等		Ⅱ 6	5	5×件	-		
		5. 講師・技術指導	Ⅳ 1	(1)GEO-Netの加盟団体、日本技術士会、大学、学協会等の開催する研修会、講習会、技術説明会、シンポジウム、パネルディスカッションの講師等		Ⅱ 7	3	3×H H:講演時間	30 /年間	日本技術士会：30/年間（こちらの上限が適用） 地質調査技士：上限なし	
			Ⅳ 2	(2)小・中・高での理科教育の講師及び企業での研修会等の講師		Ⅱ 8	1	1×H H:講演時間	30 /年間	日本技術士会：30/年間（こちらの上限が適用） 地質調査技士：上限なし	
			Ⅳ 3	(3)修習技術者等に対する具体的な技術指導（修習ガイドブック（日本技術士会）に示す「基本修習課題：専門技術力、業務遂行能力、行動原則」に該当するものに限る）及び大学等の非常勤講師		Ⅱ 9	1	1×H H:指導時間	30 /年間	日本技術士会：30/年間（こちらの上限が適用） 地質調査技士：上限なし	
			6. 図書執筆	Ⅵ 4	出版物等、成果が明確なもの（翻訳を含む）		Ⅱ 10	1	1×H H:執筆時間/件	30 /年間	日本技術士会：30/年間（こちらの上限が適用） 地質調査技士：上限なし
		7. 技術協力	Ⅵ 3	大学、研究機関等における研究開発・技術開発業務への参加、災害調査への参加、国際機関、国際協力機構等における国際的な技術協力への参加		Ⅱ 11	1	1×H H:参画時間/年度	30 /年間	日本技術士会：30/年間（こちらの上限が適用） 地質調査技士：上限なし	
④現場経験、資格取得		Ⅲ 実務型	8. 資格取得	Ⅶ 1	政府機関等の認定あるいは承認する公的な技術資格の取得	(1)技術士、学位取得、応用地形判読士及び地質リスクエンジニア	Ⅲ 1	20	20×件	-	日本技術士会：上限なし 地質調査技士：10/年間（こちらの上限が適用）
				(2)地質調査技士、地質情報管理士、RCCM、土木施工管理技士等		Ⅲ 2	10	10×件	-		
	9. 業務成果		Ⅶ 1	(1)業務上で技術的成果をあげ、グループ及び個人（本人）が表彰を受けた業務	公的な組織からのもの	Ⅲ 3	20	20/件	-	日本技術士会：上限なし 地質調査技士：30/年間（こちらの上限が適用）	
			Ⅶ 2		企業の代表者からのもの	Ⅲ 4	10	10/件	-		
			Ⅶ 3	(2)特許出願（発明者に限る）		Ⅲ 5	40	40/件	-		
			Ⅶ 5	(3)現場管理経験（主任技術者、現場管理人、掘削機長、物理探査班長等）		Ⅲ 6	5	5/業務	10/年間		日本技術士会：10/年間 地質調査技士：10/年間
			Ⅶ 6	(4)現場経験（一般調査員）		Ⅲ 7	2	2/業務	10/年間		
			Ⅶ 7	(5)電子納品の実務経験		Ⅲ 8	1	1/業務	10/年間		
			Ⅶ 8	(6)地質関連情報のデータベース化、BIM/CIMiに関する実務経験		Ⅲ 9	2	2/業務	10/年間		
	③自己学習	Ⅳ 自己学習型	10. 多様な自己学習	Ⅶ 6	(1)GEO-Netの加盟団体が認定するeラーニング		Ⅳ 1	1	1×H H:履修時間	30 /年間	日本技術士会：30/年間 地質調査技士：20/年間（こちらの上限が適用）
Ⅶ 8				(2)その他地質技術者のCPDに値すると判断されるもの		Ⅳ 2	0.5	0.5×H H:履修時間			

各項目ごとに技術士会が定めるCPD上限、地質調査技士登録更新におけるCPD上限の、2つの上限があるためご注意ください。
上限はより低い方が適応されます。

●CPD記録簿様式 プログラム形態・プログラム分類と特記事項の表

タブ表示	プログラム形態	プログラム分類	年間限度	特記事項
①講習会の受講や講師、論文の発表・査読、発注者等外部組織からの表彰等	① 講習会の受講や講師、論文の発表・査読、発注者等外部組織からの表彰等	所属組織以外が主催・進行した活動に関連するCPD ・講習会等の受講または講師（講習会、シンポジウム、研修会、見学会など） ・論文の発表または査読（口頭発表、論文掲載、論文査読など） ・特許取得 ・発注者、学協会からの表彰 ・国際機関・国際協力機構等への技術協力 ・大学や研究機関等の研究，技術開発業務への参加 ・学協会等が発行する技術図書の執筆	限度なし	・ただし「3. 学協会活動」内の「（2）学協会の会誌購読」、「5. 講師・技術指導」、「6. 図書執筆」、「7. 技術協力」については上限の設定があるため注意
②企業内における研修の受講や表彰	② 企業内における研修の受講や表彰	所属組織が主催・進行した活動に関するCPD ・企業内研修会の受講 ・社長表彰 など	年30単位以内	・表彰については表彰状等の写しが必要
③自己学習	③ 自己学習	本人の自主的な活動によるCPD ・学協会認定のeラーニング ・学協会誌の購読 ・技術を通じたNPOやボランティア活動 ・環境教育活動 ・異業種交流会 など	年20単位以内	
④現場経験、資格取得	④ 現場経験、資格取得	業務に関連するCPD ・地質調査技士、技術士、RCCM等の資格取得 ・現場経験（主任技術者、現場管理者、物理探査班長） ・現場経験（一般調査員） ・電子納品の実務経験 ・地質関連ベース化に関する実務経験	年10単位以内	・現場経験は、「主任技術者、現場管理者、物理探査班長」又は「一般調査員」で重み係数が異なるため注意
⑤委員会活動など	⑤ 委員会活動など	全地連、地区協会、県協会、学会等での委員会活動	年20単位以内	

CPD記録簿 第1年度（2020年12月1日～2021年11月30日）

登録番号・氏名【12345 地質太郎】

※印の項目は、必須入力欄です。

←この色がついているセルのみ入力してください

各シートの表は入力以外の編集を行わないでください！

登録部門数【2 部門】

登録番号・氏名、登録部門数、C P D 単位の総数（集計表の総計）、対象となる部門を

C P D 記録簿に整理したC P D 単位の総計【140 単位】

終了年月日に入力した日付がCPD取得日になります。
シート左上に示された、年度ごとの対象期間に収まるように入力してください。
正しく収まっていれば、「期間内チェック」には何も表示されません。

土壌汚染に関連するプログラムの場合は、⑮プログラム内容の中に、必ず「土壌汚染」という言葉を入れてください。
文言によって単位がカウントされます。

対象となる部門を列記（ 現場調査部門 現場技術・管理部門 土壌・地下水汚染部門）【 現場技術・管理部門、土壌・地下水汚染部門 】

①番号	②主催者名※	③プログラム名※	④プログラム番号	⑤教育分野（プログラム分類）	⑥教育形態（プログラム形態）	⑦開始年月日※	⑧終了年月日※	⑨参加単位※	⑩単位※	⑪CPD単位※	⑫主催者証明※	⑬認定機関名※	⑭プログラム目標	⑮CPD取得形態※（タブから選択）	※間違えやすい区分
1	東関東地質調査業協会	巡見 関東ローム層と武蔵野台地		C専門技術分野（調査手法）10 その他の専門技術分野その他 上記以外で地質技術者として 役に立つ専門技術分野（調査 手法）	i 講習会・研修会等への参加1 講習会、研修会等への参加	2020/12/11	2020/12/12	1.5 日		12	○	東関東地質調査業協会	1 日半の巡見コースに参加。ローカルソイルの分布や特性などについて、露頭を 観察しながら講義を受けた。	①講習会の受講や講師、 論文の発表・査読、発注 者等外部組織からの表彰 等	表彰については、表彰状の添 付が必要
2	社団法人 日本技術力向上会	技術力向上講習会	A0001			2020/2/19	2020/2/19	3 時間		3	○	社団法人 日本技術力向 上会	【土壌汚染】土壌汚染調査の現地サンプリング技術に関する講義を受講した。	①講習会の受講や講師、 論文の発表・査読、発注 者等外部組織からの表彰 等	表彰については、表彰状の添 付が必要
3	〇〇地質調査業協会	技術発表会		C. 専門技術分野（調査手法） 5. ボーリング	ii. 論文等の発表 1. 口頭発 表（協議会が認める学協会等で の発表）	2020/3/1	2020/3/1	10 分		0.8	○	〇〇地質調査業協会	ボーリング技術に関する論文を作成し、協会の査読を受けた後に発表した。	②企業内における研修の 受講や表彰	表彰については、表彰状の添 付が必要
4	□□地質調査業協会	地質技術者入職時教育				2020/6/1	2020/6/1	3 時間		9	-	□□地質調査業協会	若手技術者向けの技術講習会に講師として参加した。	①講習会の受講や講師、 論文の発表・査読、発注 者等外部組織からの表彰 等	①～⑤の選択した項目 また、まとめた上で終 了年月日に入力した日付がCPD取得日になります。 表彰については、表彰状の添 付が必要
5	国土交通省 〇〇整備局	局長表彰		A. 基礎共通分野 11. その他 の基礎共通分野	v. 業務経験 1. 学協会や発注 者の表彰を受けた業務等	2020/11/1	2020/11/1	1 件		20	-	国土交通省 〇〇整備局	現場管理責任者として従事した業務が局長表彰を受けた。	①講習会の受講や講師、 論文の発表・査読、発注 者等外部組織からの表彰 等	表彰については、表彰状の添 付が必要
6	〇〇調査(株) 技術本部	平成21年度 社内技術発表会		C. 専門技術分野（調査手法） 8. 現場計測・現場試験	iv. 技術指導 2. 社内研修会 等の講師	2020/11/10	2020/11/10	1 時間		1	-	勤務先	社内で計測技術に関する技術発表会を開催し、講師を担当した。	①講習会の受講や講師、 論文の発表・査読、発注 者等外部組織からの表彰 等	表彰については、表彰状の添 付が必要

[illegible]

CPD記録簿 第2年度（2021年12月1日～2022年11月30日）

登録番号・氏名【12345 地質太郎】

登録部門数【2 部門】

C P D 記録簿に整理したC P D 単位の総計【140 単位】

対象となる部門を列記（ 現場調査部門 現場技術・管理部門 土壌・地下水汚染部門）【現場技術・管理部門、土壌・地下水汚染部門】

※印の項目は、必須入力欄です。

←この色がついているセルのみ入力してください

各シートの表は入力以外の編集を行わないでください！
今日の空白部の削除などを行うと、正しく計算されません

①番号	②主催者名※	③プログラム名※	④プログラム番号	⑤教育分野 (プログラム分類)	⑥教育形態 (プログラム形態)	⑦開始年月日 ※	⑧終了年月日 ※	⑨参加 単位※	⑩単 位※	⑪CPD単 位※	⑫主催者証 明※	⑬認定機関名※	⑭プログラム 目標	⑮プログラム内容※	⑯CPD取得形態※ (タブから選択)	※間違えやすい区分
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
10																

第2年度以降も同様に整理を行ってください。

以下の項目については、第1年度のみ入力してください。
第2年度以降は第1年度で入力した内容が自動入力されます。
■登録番号・氏名
■登録部門数
■CPD記録簿に整理したCPD単位の総計
■対象となる部門

自動計算につき入力不可

登録番号・氏名：12345 地質太郎

登録部門数：2

対象となる部門：現場技術・管理部門、土壌・地下水汚染部門

◆CPD記録集計表（単純集計）

取得形態		CPD単位					
		合計	第1年度	第2年度	第3年度	第4年度	第5年度
			2020/12/1 ～ 2021/11/30	2021/12/1 ～ 2022/11/30	2022/12/1 ～ 2023/11/30	2023/12/1 ～ 2024/11/30	2024/12/1 ～ 2025/11/30
1	講習会への参加，発表など	45.0	45.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	企業内研修等への参加など	15.8	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0
3	自己学習	6.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	現場経験	22.0	22.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5	委員会活動など	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計		91.8	91.8	0.0	0.0	0.0	0.0
うち土壌・地下水汚染部門の単位		3.0	3	0	0	0	0

* 1 部門のみの資格更新に必要な単位数112.5 CPD単位；コロナ対応

* 2 部門の資格更新に必要な単位数157.5 CPD単位；コロナ対応

※ 2 部門の資格をお持ちの方で、1 部門のみの更新をお考えの方はお申込みの地区協会へご相談ください

取得形態による取得単位の上限があります。
この場合、④の項目は上限が10単位のため、年間で22単位取得していたとしても、再計表では上限の10単位が表示されます。
上限単位にご注意ください。

◆CPD記録再計表（取得形態による上限を考慮）

取得形態		CPD単位					
		合計	第1年度	第2年度	第3年度	第4年度	第5年度
			2020/12/1 ～ 2021/11/30	2021/12/1 ～ 2022/11/30	2022/12/1 ～ 2023/11/30	2023/12/1 ～ 2024/11/30	2024/12/1 ～ 2025/11/30
1	講習会への参加，発表など	45.0	45.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	企業内研修等への参加など	15.8	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0
3	自己学習	6.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	現場経験	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5	委員会活動など	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
総計		79.8	79.8	0.0	0.0	0.0	0.0

取得形態による上限

限度なし
30 単位／年
20 単位／年
10 単位／年
20 単位／年